

THE  
JAPAN  
INTERIOR  
DESIGNERS'  
ASSOCIATION

● ジャンボジェット機のインテリアデザイン 1

● 家具用着色剤の標準色作製急ぐ 6

● 談話室 7

● 新入会員紹介 8

● 新賛助会員紹介・会員近況 9

● 一九七二・あけましておめでとうございます・J・I・D 賛助会員 10

● 編集後記 12

no.8 ————— vol.46

# ジャンボジェット機の インテリアデザイン

お忙がしい中をお出でいただき、誠にありがとうございます。今日はお話しができる様な準備をしてきておりませんので、まちがいがあるかもしれませんが、御容赦くださる様、あらかじめお願いしておきます。

今年の6月に1週間ほど、人間ドッグにはいりました。病院の食事がまずいのや、退屈なのやで、しょっちゅうぬけだしては事務所に帰ったり、おいしいものを食べにいたりしていましたところ、医院長に、あなたは“躁ウツ”でいうなら“万年躁型”で、そんな落ち着きのないことではそのうち交通事故でもおこしますよ、といわれました。そうしましたら、5週間ほど前に本当に車をぶつけてしまいまして、歯をおりました。今日、サ・シ・ス・セ・ソがおかしいのは、この入れ歯のせいで、本当はもっときれいに発音できるのです。

さて、ジャンボ・ジェットのインテリア・デザインについてですが、これは、あとでご覧にいれるスライドではとんどわかることですが、スライドではわからないところを、はじめに申し上げておこうと思います。

この“ジャンボ・ジェット”というのはニックネームでありまして、正式には“BOEING 747”型という名称でございます。これは、ボーイング社がダグラス社との競争に命運をかけて勝ちとった飛行機でございますが、国家補助金がでた上での仕事だそうですが、負けたダグラス社は大変な欠損をこうむり、社運を左右することになったんだそうで、ダグラス社という社名は変わっておりませんが、経営者は変わったはずでございます。

ところがこんどはエアーバスの時代にあふさわしい短距離大量輸送を目的とした旅客機という命題で各社が競争した結果、これは確か、ボーイング社が

とられ、ダグラス社が勝利を得たはずでございます。

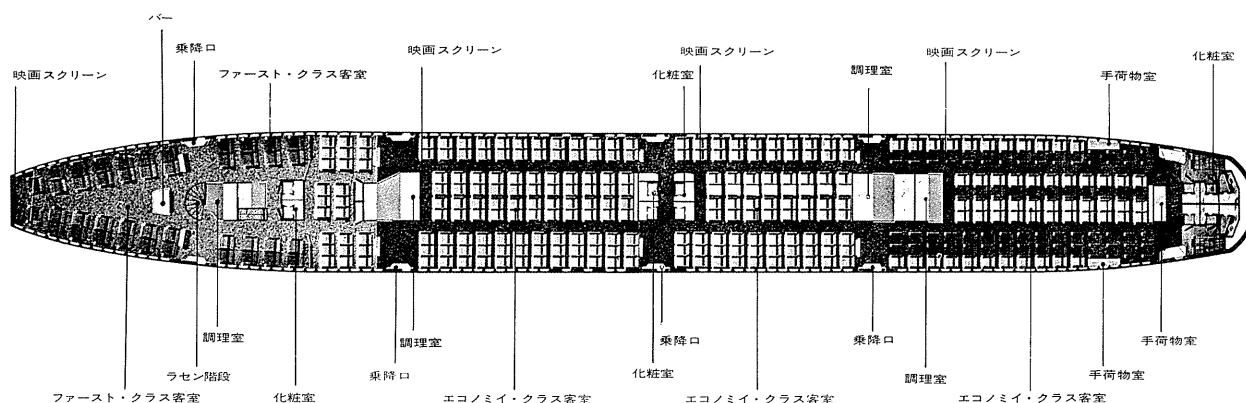
日本の国内航空旅行事情をみましても、日に日にと航空機を利用する旅客がふえてまいりました。数年さかのぼって考えてみますと、パイカントだとか、YS11が大きな顔をして飛んでおりましたが、それが今や、“727”“737”でも需要量を受けいられなくなってきているようです。パイカントは廃止になり、YS11はきわめて短距離、例えば、東京↔仙台、東京↔山形、大阪↔高松というところを飛ばされているにすぎません。

さて、日本航空が“ボーイング 747”の機種を使う事になり、内装計画は自分のところでやるといっだしたのに対し、最初ボーイング社は拒否の姿勢であったそうでございます。というのは、今まで日本航空用のインテリアデザインは、原則として、ボーイング社、あるいはダグラス社が行なう習慣で、一種のデザイン・ソースは日本航空側が提供いたしますが、デザイン上の最終処理、最終判断というのはメーカーの手ににぎられてしまうのが通例であったようです。ですから、日本航空が“747”については自分のところの手でやりたいという事にはかなりの抵抗があったのも当然でありましょう。

しかし、ボーイング社といたしましては、日本の文化、日本の趣味を扱ってみるとわからないところだらけで、なるほど事情を聞いてみると、それも一理ある、と一歩退いた為に、日本人の手になる、日本航空用のインテリア・デザインが初めて実現することになったわけです。その後、エール・フランスをはじめ、他のエアー・ラインでも自主的なデザインの態度を示したところがかなりでてきているようです。

さきごろ、アメリカのデザイン誌を

## ジャンボジェット平面図



みていましたら、"JAMBO 4 BEST"という記事がありまして、4社のデザインが特徴がある、と紹介されてありました。それは、PAN AMERICAN, CONTINENTAL AIR, BRANIFF AIR, そして、JAPAN AIR LINESでした。BRANIFF AIRはアメリカの西部から南部にとんでいる飛行機ですが、ハーマン・ミラーの顧問デザイナーである、アレキサンダー・ジェラルドのデザイン・ポリシーのもとに行なわれた非常に特色ある、優れた飛行機です。

"747"という大変にお金のかかった80何億という飛行機でございますから、どの社もできるだけ自分の思うとおりになりたいと考えたのは当然でありましょう。

さて、日本航空の場合、それを誰れの手で、どういう風に行なうかということになり、招待コンペという型をとりました。これは日本航空の中堅の人達が、我々は飛行機は専門だが、デザイナーは専門でないので、初めから、デザイナーの意見を採用すべきだ、という献言を重役にいたしまして、それに賛成を得ることができ、4名の招待コンペになったと聞いております。その4名とは、1人は今まで、日本航空の各主要都市の切符販売所の設計をずっと担当してきている建築家。1人は日本では一流と目される建築家。もう1人は日本航空の宣伝印刷物に貢献をしているイラストレーター、それと私でした。

今からさかのぼること、3年。'67 モントリオール万国博から戻ってまいりました時で、11月末か、12月始めだったと思いますが、突然日本航空の宣伝広報課の方の来訪を受けました。実はかくかくしかじかだが、やらないかという勧奨でした。

条件は、クリスマス・ウィークにシアトルのボーイング工場に飛んで、"BOEING 747"のモック・アップを見てくる。そして1月31日に次の図面を提出してほしい。

1. 平面計画
2. 基本線ですでに決っているところのバースペクティブ・ドローイングを数葉
3. 使用されているファニッシング・

マテリアル（シートカバー、カーペットなど）は単に図による表現ではなく、実際の材料サンプルを出す

なお、招待コンペであるから、その案が採用にならなくても、いわゆる保証賞金、ギャランティはつく。採用の方法は広くアンケートを行ない、選ばれた1人のデザイナーに対しては、改めてデザイン契約を結ぶ。

その他こまごました条件がついておりましたが、だいたいそんなことでした。

私は2、3日考えました。

結局、インテリア・デザイナーと世間からみられている者は私1人であって、他の2人は建築家であり、もう1人はイラストレーターである。これはものに例えれば、マラソンをやろうというのに、マラソン選手と、短距離選手や機械体操の選手をまぜてやりましょう、ごほうびをあげますよ、というようなもので、マラソン選手は勝つのが当たり前です。あまりにも大人気無い。又、いかにインテリア・デザイナーという職能が世間から認められていないか、ということを知り受けるところにもなるので、私は最初、ひっかかった。といって、ここでひいたら、自らペンを折るようなことで、これはあとにひけない。2、3日後、けっこうです。やりましょう、と返事をしました。

そうになったからにはすぐはじめようということで、私はモントリオールから帰って1週間とたたないうちに、10年所員の藤本君と、機上の人となり、シアトルにとんでまいりました。

問題のモック・アップにつれていかれ、中に入りました。

その時、私はこれはえらいことになったゾ！ これは映画館だ、船だ、と。

それは、すでに標準的なデザインが施されており、まったくはだかのストラクチャーではございませんから、ある種の表情はもっております。どここのエア・ラインの名前をつけてもおおるような平均的デザインで、よくも悪くもない。これに対し、日本航空ではどういう表現であるべきか、考え込まざるをえなかったわけでございます。

今までの飛行機というのは、飛ぶチ

ューブというか、マシーンというか、とにかく飛ぶのは当たり前という感じですから、不安感はありませんと思います。ところが、このジャンボ・ジェットは飛ぶ事は理くつの上ではわかっているが、はたして本当に飛ぶのか、だいじょうぶなんだろうか、という一種の不安は消しようがないわけです。

そこで私、思ったのは、昔、造船技術が大海原を渡っていくまでになった時、ナバル・アーキテクト（naval architect）というものがでてきた。これは、船大工が造った大きな船の中を、あたかも陸の上にいるような錯覚を旅客におこさせるように擬装を施すものだそうですが、私は、まさにこのナバル・アーキテクトの仕事をしなければならぬということです。

それから、すでにこの"747"は各エアラインの違いにかかわらず、ここここは装飾パターンを施すこと、ここは装飾を施そうとプレーン・カラーであろうとかまわぬ、という風にスベックの上で決められておりました。例えば、1等席のつき当たりの壁面と2階のラウンジのつき当たりには装飾絵画を施す。ギャレーといってキッチンの囲いがありますが、そういった大壁面、これもパターン・デザインを施す。あるいは、トイレの壁面も、ここここはパターン・デザイン、ここここは自由であるという具合に決められておりました。又、シートそのもののデザインも、ギャレーそのものの位置、デザインも、すでに飛ぶ機械として、ボーイング社において設計されており、それには、強度とか、重量とかが緻密に計算された上で決められておりますから、我々が、どうこうすることは不可能なわけです。

決められた型をそっくりそのままいただいて、それに対し、どんな風にデザイン上の主張をするか、ということが担当者の仕事になります。

私、第1に考えましたのは、全体のカラー・スキームですが、これは長い長い船のような心理的に不安定なスペースをいかに緊張させるかということ、

・分断したくない。長いものは長い1本でありたい。

・その広さを1色でいったらたいく

つでしようがないから、どこかでヴァリエーションをつけたい。

・非常にプリミティブな色の組織割りが必要である。というのは、乗客がトイレなど席をたて帰ってきた時に、自分の席をさがしまよったりしないように。

という3つの基本にいたしました。

まず、エコノミー・クラスのカーベットは全部、紫1色。ギャレーはエコノミー・クラスに3つありますが、それを境に3つのコンパートメントになっておりますから、それぞれに違う色を与えました。1つは黄、1つは青、1つは赤。そして、ニュートラル・カラーとして、グレー。ですから、3スペースが違う色をもっているが、床は同色であり、シートの半分ぐらいはグレーでとおす、という方法で全体の統一をはかりながら、スペースの色割りをしたのです。のちに、これらは、"橘" "松" "紅葉" という名称によって呼ばれることになりました。

ファースト・クラスですが、これはまったくの特別扱いで、エコノミー・クラスとはすべてかえました。カーベットはやまぶき色、シートは紫と赤でバランスをとりました。

そして、問題は壁画、装飾絵画ですが、これは、死命を制する大事なポイントになるところです。今までの日本航空は、欄間に相当するところに、日本の著名な画家の絵がシルクスクリーンで施こされていましたが、小さいせいもあって、どうも引きつけるところがありません。もっと、そのエア・ラインなり、国のキャラクターなりがはっきりでていて、同時に現代の息吹も感じさせる、そういったものでなければならぬ、それを表わすには何がいいか、画家だったう誰がよいか考えました。そして、それは加山又造氏の作品に限る、と思い、加山又造氏の壁画であることが私の提案の最重要条件であり、加山又造の壁画でなければ私は拒否する、というくらいのコンセプトを書いたのであります。これは最初案の時、設計概念をだせということでしたので――。

加山又造氏は、大和絵調の現代作家としては第1人者で、私とは同じ新制作協会の会員であり、又、今はやめま

したが、同じ多摩美術大学の教授として、顔はちょくちょく合わせておりました。

そういうことで、案のバースペクティブ・ドローイングの中に加山又造の絵をいれなければ主張とあいせんので、彼を訪れ、協力をお願いしました。彼は、今まで描いた力作を全部写真でみせてくれまして、その中から私がこれだと思ふものをわざわざとりよせ、それを写真にとってくれました。そのカラー写真を上手に、ドローイングの中にはめこんで提出したのであります。

話はちょっと戻りますが、コンセプトの中には次のようにかきました。

私が今まで日本航空にのって感じていたことは、外国人にどうもてらいすぎている、ということでした。外国人に喜んでもらおうとするのはいいんですが、日本の文化をよくわきまえている外国人にとっても歯ごたえのあるような、又、我々日本人にとってもすばらしい、そういうものでありたい。そんなことが私の力量で、できるかどうか不安でしたが、念願としては、いわば、「空とぶ日本のミュージアム、文化館」そんな風に評価されるものでなければならぬという心持ちでした。芝居でいうなら、今までが茶番であつたら、今度は歌舞伎でなければならぬし、歌舞伎であつたなら能でなければならぬ。とにかく、今までより高いものでなければならぬということでした。

さて、ふたをあけてみたところ、あなたの一番よい、日本航空としても満足である、という通知がありました。私の案が採用になり、改めて契約をし、本格的に仕事を進めることになりましたが、今度は技術部門がはいってきますので、ひじょうにむずかしい。例えば、私は最初、シートの色をアトランダムにまぜたのですが、これは大変こまるということでした。シートがこわれた時にははずして修正するし、又、1機全部がチャーターされ、まん中をぜんぶはずし、前と後だけに人が乗るということもある。そうした時、あなたの案でいくと、もとに戻す場合、配置表をみながら、ここは何色、ここは何色、とやらなければなら

ない。とてもそんなことはしてられない。目をつぶっててもきちんと元に戻すことが出来、しかもちゃんと色がバラまかれている、そんな案にしてほしい、というような注文もありました。結局、最初の案はもう1度やりなおしです。全体の方針はかわりませんが、微点においてはずいぶんやりなおしせざるをえません。その案をつめましては、シアトルへいって打ち合わせ、シアトルからもこっちにくる、と何度も何度もいったりきたりでした。

そして、内装の材料ですが、これはノーマックスを使うことになっていました。飛行機の場合、重量と防火の点で、内装材も基準がきびしいのです。このノーマックスはデュポンからでた最新のプラスチックですが、自己消化型の材料です。サランにちょっと似ていますが、サランは大変重い。ノーマックスはいいのですが、非常に高価です。主流をなした壁画のフィルム材、シートの繊維、ケースメント等につかいました。

今回、私としてはデザイン料では決して得にならないけれど、大変勉強になりました。初めは、インテリア・デザインだけということでした。が、のちに、機内で使用するものすべてをこれからデザインしなければならぬが、引き受けてもらえないだろうかという話がありました。これは大変なことだ、しかし、デザイン・ポリシーはそこまでやらなければならぬといからと思い、引き受けました。品種にしますと百何十種ということになります。

例えば、食器にしても、ディナー用、中間食事であるスナックの食器、グラスなど、これらはすべて、ファースト・クラスとエコノミー・クラスがそれぞれあります。エコノミー・クラスはプラスチックですが、ファースト・クラスは本当の磁器をつかいます。それから細かいものをいれると、ひざかけ毛布、まくら掛け、スリッパ、紙コップ、ステアリング・スティック、カートなど。今まで、食事はそば屋の出前の様に手に持って配っていましたが、人数が多いのでとてもそんなことはできません。そこで、カートから配るわけです。

通路や人数の関係で、サービス条件がまったく違うので、今までにはなかったものも必要になってきたのです。というようなわけで、つい先だってまで、そういう事をしておりました。

今から思いますと、ボーイングの人はなかなかえらいと思っています。ボーイングでインテリア関係のデザイン並びに施工の管理をしているのは、ワルター・ドーウィン・ティグ事務所です。ワルター・ドーウィン・ティグ、ヘンリー・ドレフィス、口紅から機関車までのレーモンド・ローエ、この間亡くなりましたヴァン・ドレン、この4名がアメリカにおけるインダストリアル・デザインの草分けといわれています。このティグは、1939年のニューヨーク世界博で名をあげた人で、10年前に亡くなりましたが、オフィスの名もそのまま、パークアヴェニューに本拠をかまえる大ファームであります。ボーイング・シアトル支所にもかかりっきりのスタッフとして何名かおりました。ボーイングの飛行機は二千何百種類、手がけたといえますから、大変長い間ボーイングの仕事を専門に引き受けているのでしょう。その人達が、我々の東京からの、いわば遠隔操作に従事してくれたのであります。

私が感心したのは、オーソリティに対してひじょうに素直に従うということで、オーソリティを日本語に訳すと最高権威であるとか何んとか大変なことになるのですが、つまり誰れがオーソリティであろうと、一度その人がオーソリティと決ったら、その人が立派に責任を果せる様に素直に意見に従うのです。

だから、この色は少しおかしいとか、ブルーが少し足りないとか、あるいはこのパターンはこうしてほしいという事に対して、イヤな顔ひとつしないでおしてくれるのです。

その一例をいいますと、1等のシートカバーに孫悟空がとぶ時にのる飛ぶ雲のパターン、瑞雲を援用したんですが、むこうの織りではどうしてもでてこない、みみずばりにみえちゃうのです。

あるいは、加山又造氏にやってもらったシルクスクリーン、私自身がやっ

た装飾、いずれも金箔、銀箔をちらす技術が積極的に用いられています。アメリカ人にとって、金、銀のシルクスクリーンをあままでベッタリ扱うというのは未経験なことなのです。それをあそこまでやってくれたというのは、イヤな顔ひとつせずオーソリティに従ってくれたことだと、今でも深く感謝しています。

もっとも、シルクスクリーンの元になるところの原版は凸版印刷にたのみました。凸版印刷の4色分解のブルーフをつけて送ったのです。

しかし、何度も何度もイヤな顔をせずにオーソリティに従うという態度は、我々日本人も大いに学ばねばならないと思いました。

#### スライド

1. 大空をとぶジャンボ・ジェット
2. 内部より右翼をみたところ
3. 内部より外をみたところ
4. 操縦室の中
5. "
6. 先端外部
7. 外型(日航、大松氏のデザイン)
8. 事務所、配色計画の最中
9. 事務所、配色計画の最中
10. 最初の色彩計画
11. シルクスクリーンのためし刷り
12. トイレの壁に使用したパターン
13. "
14. ギャレーの壁に施した、金箔、銀箔をふんだんに使ったシルク

#### スクリーン

15. 全体の壁に使ったすすきのパターン
16. 窓(大きくみえる様に擬似ウィンドーとして、まわりを囲った)
17. 事務所での作業(じゅうたん、椅子、プラスチックなど分業でかいた)
18. じゅうたんの案、エコノミー、ファースト、ラウンジの3種類
19. ギャレーのケースメント、材料はノーメックス
20. エコノミー・クラスの客室
21. 瑞雲のパターン
22. 各区分別材料
23. ファースト・クラス材料
24. エコノミー・クラス材料
25. トイレの壁
26. 1等客のためのラウンジ
27. ラウンジの加山又造の絵
28. 27の部分、戸ぶすまのワクはコゲ茶のプラスチックだったが、少し太いので後には、アルミの細いものになった。
29. 27の部分
30. "
31. "
32. エコノミー・クラスの加山又造の絵、スクリーンのカバーになっている
33. "
34. "
35. "
36. "
37. 椅子、ひじかけには放送のため

のチャンネルが7つほどあり、モダンジャズから落語まで聞くことができる。

38. トイレの洗面所
39. ひじかけ毛布、どこにでもつかわれるので、オフ・ホワイトを使用。又、よごれを考慮して地紋をいれた
40. ナイフ、フォーク、スプーン
41. ファースト・クラスの磁器の食器
42. "
43. エコノミー・クラスのメラミンの食器
44. お盆、ワク盆の型をとりいれた
45. 調味料入れ
46. "
47. 磁器にもられた御ちそう
48. グラス
49. コースター、赤、オレンジ、紫、緑
50. スチュワーデス及び男性乗務員の制服。女性用は森英恵、男性用は石津謙介が担当
51. スチュワーデス働き着。紺に白いつるを染めぬいたものと、赤に白の色がわりがある
52. スチュワーデスの装い
53. 男性乗務員のコート
54. 空とぶボーイング

5分の休憩の後、映画「一億人の翼——ジャンボ誕生」を観賞。

(速記 菊地信子)

## 月例会報告(9月)

9月の月例会は下記により行われました。

- ・日時 9月17日
- ・テーマ ジャンボジェット機のインテリアデザイン
- ・場所 ブリジストンホール(京橋)
- ・講師 剣持勇デザイン研究所長  
当協会理事 剣持 勇氏

本年7月、日本航空は国際線にボーイング747機を就航させるのに先立ちインテリアデザインを剣持勇氏に依頼いたしました。

外国製機のインテリアデザインを行うのは日本人で氏が最初だと思われます。

航空機のインテリアデザインはIDデザイナー・建築家と異なりインテリアデザイナー独自の分野だと思います。

インテリアデザイナーの社会的地位

向上をしなければならない時期に際し、剣持氏の業績を社会にアピールすることは意義あることと思ひ、御多用中をさいて御出講していただきました。当日は会員多数一般58名、学生21名、その他計170の多数の参加で広い会場も殆んど満席になり有意義な催しになりました。御多用中にもかかわらず快よく御出講して下さいました剣持勇氏に誌上をかりて厚く御礼申し上げます。

# — 家具用着色剤の標準色作製急ぐ —

製品科学研究所 相 沢 正

家具その他木製品用着色剤は、現在数多くの市販品があるが、いずれも、直ちに使える色が少く、数種混合して使用しなければならない不便さがある。

また、品質的にも、耐光性や化学安定性などに問題があるものがあり、安心して使えないのが現状である。

ところが外国には、木材着色に適した色と安定性の高い着色剤がある。たとえば、デンマーク、ヒヂャー社の家具着色用スタンダードカラー、ドイツ、バイエル社の木材用染料 Type 8066 などがそれである。

そこで、全国の公設試験研究機関で組織している、工業技術連絡会議、工芸連合部会、技術分科会では、この問題をとりあげ、木材用着色剤の標準化に関する研究として、一連の共同研究を行ってきたが、ようやく最終目標である、標準色の作製段階に至ったので、その経過と今後の予定についてお知らせしておく。

この研究は、昭和41年から始められ、まず木材着色剤の使用状況実態調査が行われ、その問題点を確認した上で、内外染料および既成着色剤18種、195点について、耐光性、塗料による変色性、ニジミ性、染着性などの試験が行われた。その結果より比較的安定性の高い染料を選んで標準色の作製に入った次第である。

標準色の作製方法は、デンマークの家具着色用スタンダードカラーの作製方式をとり、まず9色の基本色をきめておき、これを混合して任意の色をつ

くり、各樹種に適した色を選定しようとするものである。

対象とする樹種は、なら、まかば、けやき、ぶな、ウォルナット、マホガニーの6種である。

色の数は、なら10色、まかば色6、けやき4色、ぶな10色、ウォルナット4色、マホガニー4色計38色を目標にしている。

着色剤の種類は、水溶性着色剤、アルコール溶性着色剤の2種についてそれぞれつくる。

作製に当たった機関は、北海道から九州に至る14試験研究機関である。

選定は、第1次、第2次、第3次まで行われ、ほぼ最終目標数にしばられたが、最終決定するまでの調整の作業がまだ残っている。

第1次選定は、各実施機関から提出された着色片、水溶性着色剤338種アルコール溶性着色剤276種計614種より、技術分科会の塗装部門の職員、製品科学研究所職員を含めた23機関によって水溶性着色剤132種、アルコール溶性着色剤128種計260種が投票によって選定された。

第2次選定は、デザイナーの意見を取り入れる必要があることから、日本インテリアデザイナー協会に協力を求め、協会員14名によって同様方法で第1次選定数より、水溶性着色剤89種、アルコール溶性着色剤79種計132種が選定された。

第3次選定は、技術分科会の出席メンバー21機関によって、第2次選定数よりさらに、水溶性着色剤40種、アル

コール溶性着色剤41種計81種が選定された。

最終決定の報告を昭和46年5月を目標として、全体の調整あるいは色表示の呼称などの作業が残っており、これらに対する案をまとめ、3月に予定している小委員会にかけて決定し、5月の工芸連合部会に正式報告を行う予定である。

この標準色は、前述のとおり、デンマーク方式にしたがったものであるが、結果的に異なると予想している点は、日本人の感覚で作製、選択が行われていることであり、日本独自の色が生まれるものと期待しているのである。

このような仕事は、色の問題であるだけに、塗装技術者だけできめたのではなく、インテリアデザイナーの協力を得てこそ、対象の広い社会性に富んだ標準色が生まれるものと考えている。その点、第2次選定に当り、日本インテリアデザイナー協会に協力を求めたところ、積極的に協力下されたことを心強く思うと同時に、協力に対して深く感謝している次第である。

いずれ選定色が決定し、発表できる段階に至ったら、詳しくご報告させていただくことになるが、とりあえず経過の概略を報告しておく。

なお、利用面の普及に当っては、着色剤の市販化の問題、あるいはカラーサンプルの体裁などについてのご意見をうかがわなければならないので、さらに今後の協力を願うものである。

## 意 匠 公 報

## を ご 利 用

## 下 さ い

情報化時代に対応して遅まきながら当協会に於きましても、われわれ

に直接関係のある、家具の意匠公報を備え会員の方々への便を計りたいと存じます。

管理は当協会事務局にて行なっておりますので、資料として御利用下さい。

尚持ち出しは保管の関係で禁じて居りますので事務局にて閲覧して下さい。

本来会報に掲載できるとよろしいのですが、写真の不明瞭なものもあり正

確さを欠きますので、資料の性質上後日の問題になるかと存じとりやめました。

試みとして行いましたので暫定的に本部事務局にとりよせましたが、この他にも実用新案、特許等もあり又関西の会員の方々にも便を計りたいと思いますので、さらに充実したい所存です。

# だんわしつ

尾上孝一

## 経験中心からシステム中心へ

—— 協会に何が可能か ——

「これからは何がおこるかわからない」という言葉がはやったのは68年頃のこと。そして、テレビや新聞界をにぎわし、68年初頭のジョンソン米国大統領のドル防衛に関する特別声明にはじまり、フランス・フランの危機、ポンドの下落など、まさに国際経済の変転は、ハブニングの連続であったといわれたものでした。

しかし、今日では、ハブニングは日常現象となり、何んらオドロキともつかぬ言葉として使われてはいないだろうか。

ここで、考えたいことは、あらゆる事象は、原因があって結果が生じ、現象として、われわれの目にふれるものであるにかかわらず、その過程の原因の追求に対する思考を省略して、ハブニングという無責任な表現で片付けようとしている傾向があるのではないだろうか。

そして、この年、68年にピーター・ドラッカーの「非連続の時代」やガルブレイスの「新しい産業国家」などの著書が世間の注目を集めベストセラーにもなっていました。

この非連続の時代とは、まさに、「何が起るかかわらん」時代ということで、その主要な特性を彼がいかになく指摘しておりました。

① これから誕生する新技術は、過去数十年間の連続線上に現われてきた技術や産業とは全く異質のものであること。

② 経済政策でも理論でも、インターナショナルの感覚から脱してワールドエコノミーが生れつつあること。

③ われわれの現実の行動を支配するものは、古典的な個人主義ではなく組織化されたものではあるが、その組織化の傾向にもひとつの転機が迫っていること。

④ 知識はこの数十年間に、もっと

も中心的な資源となり、知識はそれ自体の本質とその使い方をも変化させたこと。

ここで、ピーター・ドラッカーの強調していることは、新しい知識の基礎としての新しい「概念」、すなわち、「システム」でした。

今日、よく使われている「システム」という概念は、「外形」の知覚力を技術に翻訳したものであり、生物学者のいう生態学、心理学者のいう人格、人類学者のいう文化にも見出されており、とくに、今日の記号論理学の発達によって、これら新しい知識の中心になっているといわれています。

電子計算機の発達も、この記号論理学が基礎になっていることはいうまでもありません。従って、「システム」を中心とする新しい技術には、自然科学や人文科学などの明確な区別はありません。

いわゆる、「システム」の知識とは、与えられた条件を満足するようなモデルをつくりあげ、現実をそれに合わせて構成する手法に関する知識であり、最近の経営科学としてのO・Rの手法や設計・仕事の流れ、諸手順の組合わせなど、システムの思考の対象として考えられるものには際限がないといわれています。

ここで考察しておきたいことは、これら思考様式は、新しい知識を中心とし、それらの体系的・組織的な組立てによって生れるもので、今日の情報産業やメガロポリス産業などは、その主役として登場してきています。

かつては、経験が中心の座を占めていたその場所に、新しい知識すなわち「システム」概念がとって代ってきているのであります。

そして、かつての未来とは、自らふんまえて待っていたものであるが、今日では、未来の方から自分にぶつかってきて、意識した瞬間から遠い忘却の彼方に過ぎ去ってゆく錯覚にとらわれがちなものとなっています。

もはや、そこには思考の余暇はなく、ハブニングの言葉がはびこる結果となっていくといえましょう。

一方では、旧来の価値の尺度が通用しなくなったためのやりきれなさや現代人の一種のアセリ、行動への感覚麻痺が、ハブニングの言葉で片付けてしまおうとする心理にはしてしまったといえよう。

痺が、ハブニングの言葉で片付けてしまおうとする心理にはしてしまったといえよう。

それこそ、今日のハブニングはありえないというきびしい認識、いいかえれば、何がおこってもおどろかないとの思考の主体こそ必要なのではなからうか。それは、新鮮な知識の集積であり、新しい知識の体系化であらう。

「何がおこる」そのための「何か」の原因を発見することや、また、「何か」のありかを検索するためのシステムをつくりあげておくことも望ましいことといえよう。

お互いにハブニングの言葉は禁句とし、ハブニングと認識した時点で、もはや、時代のバスに乗り遅れたか浅薄な判断力をしか持ち得なかったことに自己嫌悪すべきというべきであろう。

今や、70年代の初頭にあたり、かつての経験の座を中心とした一枚岩的テーブルの考え方から、新たに斬新な知識のシステムの組立てを含んだ大きなテーブルへと歩を進めるべき時点にきているのではないだろうか。

初心にかえれという。また、原点にもどれと事問うが、われわれのもつこれらのテーブルの在り方にも、よりフレキシブルなとらえ方が必要になってきたといえましょう。

かつて、

リンゴの落下をだれでも見過ごしている中で、そこに万有引力の原理へのヒントを見出したニュートンの問題意識の発掘。それこそ、経験をもとにせず知識から出発する着眼を、ドラッカー博士はわれわれに示唆しているのであります。

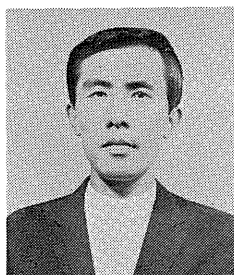
## 新入会員紹介



正会員  
なかがわちかねん  
中川千年  
(昭和6年10月20日生)

福岡県立浮羽工業高校木材工芸科卒業後、熊本短期大学外国語科を卒業され、現在は大分県日田産業工芸試験所に勤務されています。

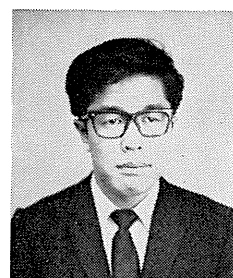
推薦者の吉永淳氏、山口勇次郎氏は、研究職という地味な役職にありながらも、たゆまないデザイン開発に力をそそがれ会員として十分な素質と資格のある人と、のべておられます。



正会員  
なかざか まこと  
長坂 信  
(昭和16年11月18日生)

千葉大学工業短期大学木材工芸科を卒業され、現在朝日木工株式会社に勤務されています。

推薦者の狩野雄一氏、白石勝彦氏は、卒業以来終始プロダクトデザインに専念し、常に前向きの姿勢で創作的な開発をされ、責任者としても優れた面をもつ、将来あるデザイナーとのべておられます。



み かみ よしゆき  
三上善之 (昭和22年12月8日生)

職業訓練大学校木材加工科を卒業、「現在、川田木工(株)に於て、企画・設計を担当していますが、特に技術面に於ける研究活動に優れ、デザインに対する関心も深く、将来、加工技術を熟知した有能なデザイナーとして成長する貴重な人材です。」と推薦者の川上信二氏はのべておられます。

## 準会員の紹介



こばやし たけお  
小林武男 (昭和5年8月23日生)

旭川工業高校 建築科を26年に修業し、TTD東京教室デザイン科を45年に卒業し、独立プロ、東映プロにて、装飾関係の仕事を経て現在、真映スタジオで活躍されているそうです。

## 東南アジア意匠・商標 調査使節団の派遣 ——団長 豊口克平氏——

今般、通産省の主催で上記の使節団が11月17日から21日間に互って、韓国・中華民国・シンガポール・タイ・香港などに派遣されることになったが、この調査の趣旨は、1971年秋に東京においてAPOデザイン振興シンポジウムの開催が予定されており、これにさきだて、相手国政府機関デザイン担当者、APO関係機関、デザイン振興団体代表者およびデザイナー代表者等に対し、シンポジウム開催の主旨を

説明し、これに参加を要請するほか、相手国デザイン振興機関を訪問し、デザイン振興方策等について意見を交換しようとするものである。

### 使節団名簿

- 団長 豊国克平(社)日本インテリアデザイナー協会理事長  
団員 伊藤康年(財)日本機械デザインセンター事務局長  
" 栄久庵憲司(社)日本インダストリアルデザイン協会理事長(除く韓国)  
" 沖 正雄(財)日本陶磁器意匠センター

- 団員 本多恭雄(財)日本繊維意匠センター専務理事  
" 松長成弘 通商産業省貿易振興向検査デザイン課総括班長(除韓国)  
" 増田晋也 全上(韓国のみ)

## 新賛助会員紹介

### チトセ株式会社

大正7年、大阪で創業、鋼製家具生産の大手メーカーとして活躍されています。昭和44年に葛西製作所より、商品名をそのまま使用され、上記社名に変更されました。

所在地 東大阪市玉串町2-1-1

### 朝日木工株式会社・豊川工場

本社を豊橋におく木工工場というよりアサヒファニチャーとして既に諸氏も御存知。定評のあったキャビネット製作のみでなく椅子、卓子類も含めて生産されています。

所在地 豊川市豊川町幾通15

### 山際電気株式会社

NHK初放送以前から電気業界に進出され、照明器具、電化機器の開発に努力されています。現在では日本における照明ばかりでなく、北欧を始め世界の照明迄あつかわれています。

所在地 東京都千代田区外神田4丁目1-1

## 会 員 近 況

### 池辺武彦

10月より国際インテリア株式会社（ノル・ジャパン）の企画設計部デザインテクニカルマネジャーとして派遣勤務されました。

#### 住 所

東京都豊島区南池袋1-18-21  
パーキングビル9階

電話 (03) 983-9151~4

#### ショールーム

東京都千代田区丸ノ内3-12  
国際ビル1階

電話 (03) 213-6767~8

#### 工 場

埼玉県入間市狭山ヶ原108-15  
電話 (0429) 62-1101~3

### 森岡 正

10月より

奈良市百楽園2-11-1

電話 (0742) 45-4146

に転居されました。

### 平井 進

吹田市千里山西6-28-8

電話 385-0215

に転居されました。

### 本田安治

兵庫県川西市花屋敷2-4-15  
花屋敷第2コーポラス105

電話 (0727) 58-0048

に転居されました。

### 山田伊三郎 三基産業株式会社

①事務用キュービック型デスクのデザイン完了。製品化に至る。

45年11月発売。

②家庭台所用品のデザイン進行中。  
(46年春製品化)

## 中部支部設置世話人会と 協会側の打合せ開催

永らく当協会の懸案となっていた中部支部を設置することで、今年度の予算に調査費を計上していたが、かねて世話人としてお願いしていた松本政雄氏のご尽力で支部設置実現の見通しがついてきている。

去る11月28日(土)午後2時から名古屋国際ホテル会議室で世話人会の方々と協会側の打合せが開催された。会話はなごやかな雰囲気の中に、腹藏のない意見が交され、新支部のメリットというものは、その事業活動のいかににかかっているということで、大筋の諒解がつき、いよいよ支部設置実現への具体的活動をはじめる段取りになっ

た。実現のあかつきには、中部の会員数は現在の数人から10数人、あるいはそれ以上にもなる期待がもたれている。月例・研究活動あるいは広報活動についても、中部色を大いに発揮してゆこうという期待ももたれている。できれば年度内に発会式を行いたいと松本政雄氏は意気込んでおられる。当日の会同者は下記のとおりであった。

松本政雄氏(松本建築デザイン事務所 所長)

宇賀敏夫氏(会員 愛知(株))

服部敏行氏(ショールームシャングル 課長)

堀内啓二氏(名古屋市立工芸高校)

若園 晃氏(愛知県産業貿易館デザイン室長)

黒野敬三氏((株) 試工舎、取締役 設計担当)

富川 齊氏(愛知県窯業技術センター 主任研究員)

#### 協会側

樋口 治(中部支部設置担当理事)

岡村 実(大阪支部担当理事)

工藤広忠(事務局長)

その後1月13日に日本輸出雑貨センター名古屋支部会議室において打合せがおこなわれ、事務局長が出席した。

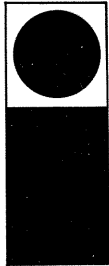
4月中に支部の発会式を開催できるようにつぎのことを至急にとりすすめることになった。

(イ) 3月の理事会に間に合うように入会希望者の申込書を取りまとめる。

(ロ) 中部支部事務局は(財)日本輸出雑貨センター名古屋支部内におく(接しよう中)。

# 1971

# あけましておめ



THE  
JAPAN  
INTERIOR  
DESIGNERS'  
ASSOCIATION

## アイカ工業株式会社

〒452 愛知県春日井郡新川町西堀江2288  
新川清州 (0560) 40-5311

## 朝日木工 (株) 豊川工場

〒442 愛知県豊川市豊川町幾通15  
豊川 (05338) 6-4171

## 内一商事株式会社 東京営業所

〒110 東京都台東区台東3-28-8  
東京 (03) 832-3366

## (株) 小川商店

〒105 東京都港区西新橋2-6-1  
東京 (03) 591-1386~9  
〒252 大阪市南区順慶町1-37 (大阪出張所)  
大阪 (06) 261-7602

## (株) 川島織物 東京営業所

〒100 東京都千代田区永田町2-14-2  
(山王グランドビル 5 F)  
東京 (03) 580-4511

## (株) コスガ

〒103 東京都中央区日本橋両国30  
東京 (03) 862-6711

## (株) 寿商店

〒101 東京都千代田区有楽町1-14  
東京 (03) 591-1211

## 魁育児家具株式会社

〒104 東京都中央区晴海3-10 J.F.Cビル  
東京 (03) 533-1270

## 住江織物株式会社 東京支店

〒105 東京都港区西新橋3-23-1  
東京 (03) 433-4171

## 大和絨毯販売株式会社

〒105 東京都港区新橋2-2-3  
東京 (03) 591-0301 (代)

## (株) 高島屋

〒542 大阪市南区難波新地6-14  
大阪 (06) 631-1101

## チトセ株式会社

〒578 東大阪市玉串町2-1-1  
東大阪 (0729) 62-1141

## (株) 千代田グラビア印刷社

〒144 東京都大田区本羽田2-14-11  
東京 (03) 744-2111

## (株) 天童木工製作所 東京支店

〒105 東京都港区芝浜松町2-11  
東京 (03) 432-0401

## 東洋ゴム工業株式会社

〒550 大阪市西区江戸堀上通2-5  
大阪 (06) 441-3580・8801

# でとうございます

JID賛助会員

## 東洋紡インテリア株式会社

〒530 大阪市北区梅ヶ枝町108  
大阪 (06) 361-9771

## (株) 日建設計

〒541 大阪市東区横堀2-38  
大阪 (06) 203-2361

## 日本電気装備株式会社

〒578 大阪府東大阪市花園西町1-14-11  
東大阪 (0729) 61-6321

## ネコス工業株式会社

〒244 横浜市戸塚区飯島町久保890-1  
横浜 (045) 851-5761 (代)

## 長谷虎紡績株式会社

〒541 大阪市東区横堀2-10  
大阪 (06) 203-5921

## 飛驒産業株式会社

〒506 岐阜県高山市名田町1-82  
高山 (0577) 2-1001

## 富国株式会社

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町2-2  
東京 (03) 662-1901

## 藤井毛織株式会社

〒542 大阪市南区南波 (南海会館)  
大阪 (06) 632-3001

## 富士ファニチャ株式会社 大阪支社

〒553 大阪市福島区上福島北2-89  
(淀川ビル3F)  
大阪 (06) 531-9740

## 古川工業株式会社

〒531 大阪市大淀区中津浜通4-5  
大阪 (06) 371-0848・5675

## ハウトク金属株式会社

〒460 名古屋市中区錦2-15-22 協銀ビル  
名古屋 (052) 201-4101 (代)

## (株) ホクサン

〒135 東京都江東区木場3-15-4  
東京 (03) 641-5111

## 松下電工株式会社

〒571 大阪府門真市大字門真1048  
大阪 (06) 908-1131

## 三好木工株式会社

〒113 東京都文京区湯島4-9-2  
東京 (03) 813-5481

## ヤマギワ電気株式会社

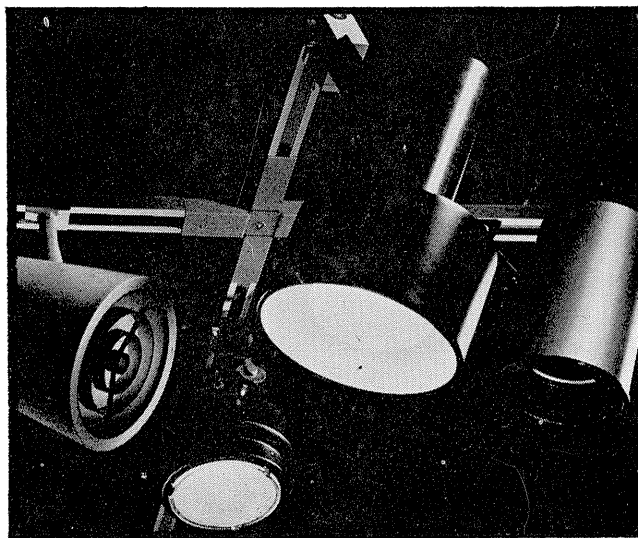
〒101 東京都千代田区外神田4-1-1  
東京 (03) 253-21111大 (大代)

マイホームに奉仕する

**ハセトン**

**ハセトン®カーペット**

長谷虎紡績株式会社 岐阜本社・大阪営業所・東京営業所



.....インテリアの決め手  
ヤマギワオリジナル照明.....



**ヤマギワ電気**

東京都千代田区外神田4-1-1  
TEL 253-2111〈大代〉 千101  
大阪店、名古屋店、横浜店  
メルサ店、バルコ店、大宮店、千葉店

## ● 編集後記

45年度会報発行予定に追いまくれ、発行の遅れに気ばかり焦っているうちに新年を迎え、会報委員会一同恐縮しております。

また Vol. 43、44 合併号は大阪にて編集、印刷をしており、取材その他の

都合で発行遅れのため、Vol. 45 を先に発行致しました。悪しからずお許し下さい。

こゝで改めて会員諸氏に会報に対する積極的な御意見、御投稿をお願いし、会報をより良いコミュニケーション

ンの場にして行きたいと考えています。

〈三宅征郎〉

機関誌・J I D・No. 8・Vol 46 昭和46年1月発行 発行人 豊口克平 編集 社団法人日本インテリアデザイナー協会  
発行所 社団法人日本インテリアデザイナー協会 東京都渋谷区神宮前1-14-34 森ビル (☎ 150) 電話 403-6647  
会報委員会 委員長 三宅征郎 委員 (関東) 泉修二・尾上孝一 織田武己・鈴木栄二・田中聰行・牧野達夫・矢田秀治  
中島研一

(関西) 上野忠之・尾畑祐司・南原七郎・本田安治・森岡正・村田博三

(K)